

書誌第105号追

九州沿岸水路誌

追補第9

令和7年（2025）7月25日発行



海上保安庁

九州沿岸水路誌

追補第9

この追補は、令和3年3月刊行の九州沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和7年4月25日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和7年7月25日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所（表題、港名等）	備 考
50	博多港	追補第8の当該ページは無効
67	伊万里湾	
69	伊万里港	追補第1の当該ページは無効
71	対馬	追補第6の当該ページは無効
76	厳原港	追補第6の当該ページは無効
78	比田勝港	追補第6の当該ページは無効
85	平戸瀬戸南口～佐世保港口・大村湾	
88	臼浦港・相浦港	
91	佐世保港	追補第8の当該ページは無効
106	長崎港	追補第8の当該ページは無効
136	八代港	追補第8の当該ページは無効
144	福江港	
170	鹿児島港	追補第7の当該ページは無効
171	鹿児島港	追補第8の当該ページは無効
180	油津港	追補第6の当該ページは無効
199	名瀬港	
200	名瀬港	追補第4の当該ページは無効
215	渡久地港	
217	那覇港	追補第5の当該ページは無効
218	那覇港	追補第2の当該ページは無効
220	那覇港	追補第7の当該ページは無効
223	金武中城港、中城湾	追補第7の当該ページは無効
241	平良港	追補第7の当該ページは無効
245	石垣港	
246	石垣港	追補第7の当該ページは無効

	第7・8号岸壁	33° 36.7' N 130° 23.8' E	360	3～5.5	2,000×4	7号岸壁前面障害物あり
	第9～11号岸壁	33° 36.7' N 130° 24.1' E	390	6～7	5,000×3	
	第12号岸壁	33° 36.6' N 130° 24.2' E	161	5.5	3,500×1	
博多ふ頭2号岸壁		33° 36.3' N 130° 23.9' E	105	5	2,000×1	
博多ふ頭3号岸壁			147	6～7.5	5,000×1	定期船用
須崎ふ頭	1号岸壁	33° 36.4' N 130° 23.5' E	130	5～7.5	5,000×1	
	第2～4号岸壁		553	10～12	30,000×2	アンローダークレーン3基
	第5・6号岸壁	33° 36.3' N 130° 23.2' E	260	7	5,000×2	
	第7～10号岸壁		450	4～5.5	2,000×5	
長浜1号岸壁		33° 36.0' N 130° 23.4' E	360	3～5.5	2,000×4	
長浜2号岸壁		33° 35.9' N 130° 23.6' E	360	4～6	2,000×4	

上記表の他に、防波堤内には箱崎、東浜、長浜及び福岡の4船だまりがあり、小型船及び漁船の係船に利用されている。

5 **最大入港船舶** 2025年3月7日、客船MSCベリッシマ（171,598t、喫水8.7m）が中央ふ頭5号岸壁に着岸した。

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカー（タンク船も含む）から30m（LPG船は50m）以内の海域に立ち入ることが禁止されている。同タンカーは、港内停泊中「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

通信

10 **港長** 船舶と港長との間で、「もじほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
もじほあん MOJI COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	福岡海上保安部	

港湾管理者 船舶と港湾管理者との間で、VHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
はかたポートラジオ	16/11, 12ch	常時	092-272-0577	東洋信号通信社受託局

水先 博多水先区水先人会に要請する。（第1編総記第6章水先参照）

係船浮標 長浜船だまり西部に1個の係船浮標がある。

15 **錨泊禁止** 西防波堤南部の内港入口から荒津大橋に至る海域は、福岡、長浜各船だまりに出入りする船舶の航路を確保するため、錨泊が禁止されている。

錨地 主に、第3区に錨泊するよう指導されている。北寄りの風の強いときは船舶の喫水に応じて志賀島や西戸《サイト》埼（33° 38.7' N 130° 21.7' E）の南西方に、西寄りの風の強いときは能古島の東側に錨泊するほうがよい。長浜船だまりは、どの方向の風に対しても比較的安全である。

検疫錨地は、能古島の東部に指定されている。

20 **架橋** 第1区南西部の博多漁港入口を横断する荒津大橋（高さ約38m）がある。

針路法 壱岐水道から伊万里湾に向かう場合の針路法を記載する。

伊万里港への、福島側の西側水道は、幅約 0.5M、水深 15.5～33m で障害はない。

青島水道から入航する場合

針路 246° で西航する船舶は、馬渡島の番所ノ辻 (33° 34.5' N 129° 45.0' E) 北西方約 3M 後、針路 181° に変針して、黒島 (33° 27' N 129° 43' E) 西端の西方約 0.6M に至り、針路 180° で航過する。水道西側の陰礁は伊豆島東方灯浮標 (33° 25.8' N 129° 42.0' E) とその南南西方約 750m にある灯浮標の東側を航行することによって避けることができる。

水道通航中は、羽島 (高さ 8m、33° 24.5' N 129° 41.6' E) と岳崎鼻 (33° 23.2' N 129° 41.1' E) との一線 (197°) を以西に入らないように注意すること。また、魚固島南側の養殖施設に注意する。

その後は、鷹島南端から西南西方約 1.2M にある水深 12.4m、同端から南南西方約 0.5M の水深 13.6m 及び南南東方約 0.8M の水深 12.6m の浅所などに注意を要する。

針路 066° で東航する船舶は、二神島灯台 (33° 36.3' N 129° 33.2' E) 正横約 2.7M 後、青島水道へ向かう場合は、針路 137° で鷹島南西部の高さ 117m 頂 (33° 25.2' N 129° 43.8' E) に向首し、黒島西端の南西方 1M 付近から上記針路法による。

津崎水道から入航する場合

二神島灯台正横後、針路 153° で水道のほぼ中央に向首する (船首目標には岳崎鼻、城《ジョウ》山 (33° 23.2' N 129° 40.9' E、高さ 128m) 及び不老山 (33° 20.0' N 129° 43.4' E、高さ 288m) がある)。この水道を通航する際、潮流の強いときには、チョーズ瀬 (33° 24.1' N 129° 40.0' E、最小水深 6.4m) と山ノ崎瀬 (33° 23.8' N 129° 40.8' E、最小水深 7m、) 上で激しく破浪し、また定置網があるので水道中央を航過したほうがよい。

伊万里港へは、前記のとおり伊万里湾に入湾後、平《タイラ》山 (33° 22.0' N 129° 47.1' E、高さ 174m)、金井埼灯台 (33° 22.3' N 129° 47.4' E) などを船首目標に、初埼灯台 (33° 24.9' N 129° 47.8' E)、二島などを正横目標に使って、大飛島～金井埼間に至り、伊万里港口を完全に見通してから適宜右転して港口へ向かう。

潮流 伊万里湾では、上げ (下げ) 潮流は湾奥 (湾口) へ流れ、最強流速は上げ 0.4kn、下げ 0.3kn である。

青島水道では、上げ (下げ) 潮流は湾奥 (湾口) へ流れ、最強流速は 0.4kn である。

津崎水道では、上げ (下げ) 潮流は湾奥 (湾口) へ流れ、最強流速は 0.6kn である。

注意 湾西部の松浦港、調川《ツキノカワ》港、今福港沿岸付近には多数の陰礁がある。岳崎鼻 (33° 23' N 129° 41' E) の周辺及びその南側海域には養殖施設がある。

海上交通 今福港～飛島漁港 {大飛島}、殿ノ浦漁港 {鷹島南東岸} 間に定期旅客船便 (60 t) が運航している。また、青島漁港～御厨 {松浦港西角}、船唐津漁港 {鷹島南西岸}、黒島漁港、阿翁浦漁港 {鷹島北西岸}、飛島漁港間に定期カーフェリー便 (162 t) が運航している。

る「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

投錨禁止 名村造船所2号岸壁・4号岸壁（33° 20.2' N 129° 50.1' E）の前面は投錨禁止区域に指定されている。

錨地 検疫錨地は白岩鼻（33° 20.9' N 129° 48.7' E）の南南西方0.6 M付近に指定されている。

5 港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
久原	北3号岸壁	33° 18.9' N 129° 49.2' E	185	10	15,000×1
	北2号岸壁	33° 18.8' N 129° 49.1' E	260	6～8	5,000×2
	南1号岸壁	33° 18.6' N 129° 49.0' E	270	5.5	2,000×3
	南2号岸壁	33° 18.6' N 129° 49.2' E	260	7.5	5,000×2
	南3号岸壁	33° 18.6' N 129° 49.3' E	370	7.5～10	15,000×2
七ツ島	北1号岸壁	33° 20.5' N 129° 50.5' E	160	9	10,000×1
	北2号岸壁	33° 20.4' N 129° 50.4' E	260	13	40,000×1 コンテナ クレーン
	南1号岸壁	33° 19.7' N 129° 50.2' E	260	7.5	5,000×1

福島県の南西側に3シーパースがあり、シーパース灯が設置されている。

架橋 瀬戸地区の西岸とその対岸の久原南地区との間に伊万里湾大橋（33° 18.2' N 129° 49.8' E、高さ約20m）がある。

架空線 牧島のウートー鼻の南方230m付近から対岸の久原南地区に至る架空線（高さ約52m）がある。

- 10 **台風・津波等対策** 本港では、異常気象時、港長から在港船舶等に対し、各船舶がとるべき措置について、行政指導及び港則法に基づく勧告等がなされることから、留意すること。（問合せ先：伊万里海上保安署）

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
伊万里海上保安署（港長）	0955-28-3388	門司植物防疫所福岡支所伊万里出張所	0955-28-2573
門司税関伊万里税関支署	0955-28-2514	動物検疫所門司支所長崎空港出張所	0957-54-4505
福岡検疫所長崎検疫所支所	095-826-8082	福岡出入国在留管理局佐賀出張所	0952-36-6262

引船・通船 引船及び通船が数隻ある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

- 15 **修理** 修理の可能な造船所がある。

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
伊万里有田共立病院	0955-46-2121	

海上交通 浦の崎〔滑栄漁港南〕～福島港間に定期旅客船便（19t）がある。

第2節 対馬（海図W173）

概要 長崎県に属し、南北の長さ約 73km、最大幅約 18kmの大きな島で上島及び下島の 2 島から成る。島岸は非常に激しく出入し、多数の湾入部には小港湾が多く小型船の避泊地が得られる。下島東岸の中部にある厳原港と上島東岸の北部にある比田勝港が代表的な港である。厳原港～芦辺港・郷ノ浦港〔壱岐島〕～博多港との間にはカーフェリー及び高速旅客船が運航し、比田勝港と博多港との間にはカーフェリーが運航している。また、両港と韓国釜山との間には高速旅客船が運航している。また、下島東岸北部に対馬空港があり、長崎、福岡に至る定期航空便がある。

島の南、北両端付近は距岸約 1.5Mまで岩礁が散在している。沿岸一帯には、養殖施設及び刺網、小型定置網等が多数存在し、また、北～西～南岸に至る間では飼付漁業が行われているので、各港湾への出入港及び沿岸航行をする場合には注意を要する。

避泊地 対馬沿岸では多数の避泊地が得られ、一般に東岸にあるものは東風、西岸にあるものは西風にさらされる。避泊地は次表のとおりである。

避泊地名	概 位	避泊不適風向	錨泊できる最大船舶	備 考
佐 須 奈 港	上島西岸	北西	1,000 t	佐須奈港の頁参照
仁 田 湾		おおむね西	1,000 t	底質はおおむね泥、中央部に定置網及び南岸に養殖施設がある。
三 根 湾		西	1,000 t	丸島北東方水域は、水深 40m前後でやや深いが底質おおむね泥。
綱 浦		西	500 t	底質おおむね泥、西風の強吹中は波浪が侵入する。
浅茅《アソウ》湾	西岸中部		2,000 t	浅茅湾の頁参照
豆 酸 《ツツ》湾	下島南端	南東～南西	3,000 t	北西～北風時には各種船舶の好避泊地になるが、南風にはさらされる。風波の大きいときには停泊が危険。豆酸埼と東方対岸の小母《コモ》埼との一線の北側〔豆酸港〕は、水深 20m未満で底質は砂であるが、所々に岩がある。
厳 原 港	下島東岸	東～南	1,800 t	厳原港の頁参照
阿 須 浦		東～南	5,000 t	浦内の 5m等深線は距岸 150m以内にあり、浦内の中央部は水深 12.5～18m、底質砂で 5,000 t 以下の船舶の錨地が得られる。なお、気象に対する注意事項は厳原港とほぼ同様
三 浦 湾		湾口付近は東	各種	三浦湾の頁参照
大漁《オロシカ》湾	上島東岸	おおむね東	500 t	湾奥には水深 20m前後、底質は泥で、南西～北西風を避ける 500 t 程度の小型船の錨地が得られる。
佐 賀 浦		東	800 t	多数の陰礁があり、錨地は狭められている。東風の強吹時には大波が侵入する。浦奥に佐賀漁港があり、浦内には約 800 t の船舶が錨泊できる。
比 田 勝 港		北東～南東	1,000 t	比田勝港の頁参照

避泊する際は、湾口又は湾内の漁網及び養殖施設に十分注意する必要がある。

漁業 対馬上島の北東から東方の約 10～110Mの海域、対馬下島の南から西南西方の約 8～35M以内の海域で、毎年 5～11 月の間シイラ漬け漁業が行われる。

原港等異常気象対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。(問合せ先：対馬海上保安部)

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
対馬海上保安部（港長）	0920-52-0643	福岡出入国在留管理局対馬出張所 （厳原庁舎）	0920-52-0432
門司税関厳原税関支署	0920-52-1112		
長崎県対馬振興局	0920-52-1311	福岡検疫所厳原・比田勝出張所	0920-52-0089

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

5 **修理** 500t 程度の船舶を上架できる造船所がある。

海上交通 壱岐島に寄港して博多港に至るカーフェリー便（1,809 t）、高速旅客船便（163 t）及び韓国釜山との間に高速旅客船便（457t 及び 362t）がある。

10 三 浦 湾（34° 19′ N 129° 23′ E）（海図W1211）

概要 湾口付近は大型船の避泊地になるが、東～南東風にさらされる。

湾北部の奥に鴨居瀬漁港があり、湾西部には浅茅湾に通ずる万関瀬戸のほか多数の小浦があつて、それらの小浦及び海岸沿い一帯に養殖施設がある。

目標

地 物 名	概 位	備 考
折 瀬 鼻	34° 18.0′ N 129° 23.5′ E	顕著ながけの埼、鼻上に灯台がある。
黒 島	34° 18.9′ N 129° 23.9′ E	3つの頂がある樹木の茂った険しい島で、南岸の東部及び中部は低い岩のがけ海岸を成し岸に沿って礁が続いている。東端の島頂に灯台（高さ 144m）がある。中央部の島頂は、高さ 94mである。
国《クン》埼	34° 18.8′ N 129° 22.8′ E	険しいがけの埼
甑《コシキ》埼	34° 18.2′ N 129° 22.2′ E	緒方浦の浦口西角

めている。(問合せ先：比田勝海上保安署)

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
比田勝海上保安署	0920-86-2113	福岡検疫所厳原・比田勝出張所	0920-52-0089
福岡出入国在留管理局対馬出張所 (比田勝港事務室)	0920-86-4000	門司税関厳原税関支署比田勝出張所	0920-86-2269

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海上交通 博多港との間にカーフェリー便 (1, 125t) 及び韓国釜山との間に高速旅客船便 (457t 及び

5 362t) がある。

第3節 壱岐水道西口～野母埼 (海図W187)

二神《フタガミ》島～佐世保港口 (平戸島西側経由) (海図W198、W1249)

概要 壱岐水道の西口にある二神島及び小二神島から南方には、的山大島、度《タク》島、生月《イキツキ》島などを挟んで平戸島がある。この海域は九州北岸～西岸を航行する船舶の通航が多い。

目標

地 物 名	概 位	備 考
二 神 島	33° 36.3' N 129° 33.2' E	高さ 91m、南部に灯台がある。岸は険しいがけを成す。
小 二 神 島	33° 36.9' N 129° 31.1' E	小島 (高さ 57m) で、周囲は急深である。
的 山 《アズチ》大島	33° 29.3' N 129° 32.7' E	北東部にある後ノ浦以外の島岸はすべて険しいがけで、島頂 (高さ 216m) は南方から玄界灘に向かうときの好目標。島の東及び西側の峰付近に、風力タービンが複数設置されている。

注意 的山大島の長崎鼻 (33° 30.6' N 129° 33.3' E) から北方に延びる礁脈がある。少し波があると白波が立つので、その外端を識別することができる。

大島瀬戸 (33° 27.7' N 129° 31.2' E) は、的山大島～度島間の水道で、最狭部は約 1M、水深は 30～70mあり、大型船も通航できる。

15 **針路法** 大島瀬戸を西航しようとする船舶は、度島北端の荒埼 (33° 27.3' N 129° 31.8' E) を生月島北端付近の大碇鼻《オオバエハナ》灯台 (33° 26.4' N 129° 25.8' E) と一線 (260°) に見て進み、蛸ノ曽根 (33° 27.9' N 129° 34.1' E、水深 4m) の南方約 500mの地点を通過してから、適宜の針路に変針して中曽根 (33° 28.0' N 129° 32.3' E、水深 8.3m) に注意しながら瀬戸を通過すればよい。

潮流 大島瀬戸では、上げ (下げ) 潮流は西 (東) 方へ流れ、最強流速は上げ 2.8kn、下げ 3.3kn である。

20 **白岳瀬戸** (33° 25.0' N 129° 32.3' E) は、度島～平戸島間にある水道で、小幅 0.7M、東口はやや浅くて、水深 16～20mの北西～南東方向に延びる堆がある。

針路法 白岳瀬戸を西航する船舶は、平戸島のハナグリ鼻 (33° 24.4' N 129° 31.5' E) と中江ノ島北西端の千鳥鼻 (岩頂) (33° 22.5' N 129° 27.8' E) とを一線 (237°) に見て進み、肥前横島灯台 (33° 25.3' N 129° 32.1' E) 正横後、適宜の針路に変針して瀬戸の中央を通航すればよい。

25 **潮流** 白岳瀬戸では上げ (下げ) 潮流は西南西 (東北東) 方へ流れ、最強流速は上げ 2.9kn、下げ 2.5kn である。

平戸瀬戸南口～佐世保港口・大村湾（海図W198、W1249、W1232）

概要 平戸瀬戸を通して佐世保港に向かうか、黒島（高さ134m）西方又は、南方へ向かうときに常用する航路である。青砂埼以南の海岸は無数の小島〔俗称九十九島〕が散在し、西海国立公園の一部を成している。多数の陰礁がある。

5 目標

地物名	概位	備考
鞍掛山	33° 21.2' N 129° 32.5' E	高さ220m、3無線塔がある。
青砂埼	33° 19.9' N 129° 33.7' E	埼上の台形の山（高さ124m）は顕著、北西端に灯台がある。
黒島	33° 17.5' N 129° 31.0' E	高さ69mの小島
野島	33° 16.9' N 129° 30.9' E	高さ46mの小島
冷水《ヒヤミズ》岳	33° 14.0' N 129° 34.9' E	高さ303m、頂に大きな長方形の岩があり、西方からは特に顕著である。展望台がある。
下枯木島	33° 12.4' N 129° 30.3' E	高さ32m、南北に細長く、南端に灯台がある。北東方に上枯木島がある。
高島	33° 09.9' N 129° 35.2' E	南部の番岳（高さ136m）の南側に奇形の鋭頂がある。南端至近に柱岩（高さ44m、鋭くとがった顕著な岩で灯台がある）がある。
高後埼	33° 06.1' N 129° 40.0' E	埼上に灯台及び信号所がある。
伊島	33° 10.2' N 129° 31.4' E	高さ40m、2頂ある小島。東方に幸ノ小島（高さ23m）がある。
黒島	33° 08.5' N 129° 32.1' E	高さ134m、南方及び北方の遠くから望むと、大小二つの島のように見える。

上表のほか、平戸島東岸の諸埼はいずれも南方及び北方から見て顕著である。

針路法（第15図参照）平戸島西方から佐世保港へ向かう場合

- 1 尾上島灯台（33° 10.7' N 129° 19.9' E）を060° 約1.9Mに見る所から針路103° で帆上《ホアゲ》ノ瀬（33° 07.4' N 129° 25.0' E、高さ26m）の北方及び黒島（33° 08.5' N 129° 32.1' E、高さ134m）の南方を航行する。
- 2 次に高後埼灯台（33° 06.1' N 129° 40.0' E）を090° に見るようにして進み、佐世保港外の白瀬にある面高白瀬《オモダカシラセ》灯台（33° 05.5' N 129° 37.6' E）正横がほぼ0.6Mとなる地点で針路112° に変針する。
- 3 洗出シノ瀬（33° 05.7' N 129° 39.8' E、水深12.4m）及び高後埼灯台正横後左転し、大島の遠見岳（33° 03.6' N 129° 37.9' E、高さ100m）と百合岳（33° 02.4' N 129° 36.6' E、高さ194m）とを船尾一線に見る針路042° で進むと港口ほぼ中央に向かう。
帆上ノ瀬と平戸島間の海上は漁船が多いので注意を要する。

目標

地物名	概位	備考
笹島〔ナメラ〕島	33° 11.8' N 129° 34.7' E	高さ 36m
トコイ島	33° 11.8' N 129° 35.9' E	高さ 67m、南北に長い。
高崎山	33° 12.3' N 129° 36.9' E	高さ 112m、円すい形で好目標である。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
奇岩岸壁	33° 12.6' N 129° 37.1' E	180	—	4,000×2	
奇岩岸壁2		370	—	3,000×2	

5 架空線 焼島 (33° 12.2' N 129° 35.3' E、高さ 81m) 東岸から永ノ島に至る送電線 (高さ 15m) 及び永ノ島東岸から東北東方の対岸に至る送電線 (高さ 19m) がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

相浦港 (33° 11' N 129° 38' E) (海図W1234) (JPAIN)

10 港種 港則法適用港

概要 佐世保港の北隣にある港で、港内の焼島 (33° 11.4' N 129° 38.8' E) 東方に、佐世保市地方卸売市場などの施設がある。

目標

地物名	概位	備考
愛宕山	33° 12.1' N 129° 39.8' E	高さ 259m
煙突	33° 11.7' N 129° 38.9' E	高さ 184m、灰色

15 港湾施設

名 称		概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
相 浦	-7.5m岸壁	33° 11.4′ N 129° 39.1′ E	130	4～7.5	5,000×1	
	-5.5m岸壁		90	5.5	2,000×1	
	-4.5m岸壁		60	5 以下	700×1	
	-4.5m岸壁	33° 11.3′ N 129° 39.2′ E	180	—	—	
	-5.5m岸壁	33° 11.2′ N 129° 39.1′ E	180	5 以下	300×2	

上表のほか、ふ頭の北側及び北東側から対岸に至る間に小型船用の物揚場がある。港内北部には、会社専用の係船施設がある。

20 入港上の注意 港内東岸から北西方へ突出しているふ頭は、前面にある一貫島から矢坪島 (33° 11.5' N 129° 38.7' E、高さ 20m) に至る小島群により風波を防げるが、回頭可能域は 200m以下である。

台風・津波等対策 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、佐世保港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。また、異常気象時においては、港長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること（問合せ先：佐世保海上保安部）

- 5 **航泊禁止** 平成30年1月31日から当分の間、高後埼灯台から東方3,700m（概位 $33^{\circ} 06' 07''$ N $129^{\circ} 42' 22''$ E）の沈船（約 12,000 t、黄塗球体浮標にて表示）を中心とする半径 250m の円内海域は、喫水が 10m 以上の船舶の航行及び全ての船舶の錨泊が禁止されている。（平成30年1月31日 港長公示第2号）

港湾施設

名 称		概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
鯨瀬フェリー栈橋		33° 09.7′ N 129° 43.4′ E	115	5.5	2,000×1	フェリー使用
新みなと	－7.5m岸壁	33° 09.8′ N 129° 43.5′ E	220	7.5	15,000×1	
	－4.5m岸壁		100	4.5	2,000×1	
三浦－10m岸壁		33° 09.6′ N 129° 43.5′ E	270	10	12,000×1	
干 尽	－4.5m岸壁	33° 09.3′ N 129° 43.4′ E	60	4.5	500×1	
	－7.5m岸壁		130	7.5	5,000×1	
	－5.5m岸壁		180	5.5	2,000×1	
前 畑	－4.5m岸壁	33° 09.0′ N 129° 43.3′ E	120	4.5	7,000×1	
	－10m岸壁		185	7.5～10	15,000×1	
	－11m岸壁		195	9.5～10	20,000×1	水平引込クレーン式アンローダー
	－13m岸壁		260	11.5～13	40,000×1	
	－7.5m岸壁	33° 08.8′ N 129° 43.4′ E	130	7.5	5,000×1	
浦頭岸壁 1、2 号		33° 06.1′ N 129° 44.9′ E	260	6～7	5,000×2	

上記のほか、港内各所に米軍及び自衛隊の専用係船施設がある。

- 10 **最大入港船舶** 2025 年 4 月 17 日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が三浦－10m岸壁に着岸した。

航泊制限 引火による船舶の事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）30m 以内の水面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

- 15 **錨地** 第3区東部の恵美須湾は、水深 10m 前後、底質泥及び貝殻で好錨地になる。

検疫錨地（ $33^{\circ} 05.8' N$ $129^{\circ} 42.0' E$ ）は、航路の南側に指定されている。

危険物積載船の錨地は、第3区の百間《ヒヤッケン》鼻（ $33^{\circ} 07.6' N$ $129^{\circ} 44.1' E$ ）と土井ノ鼻（ $33^{\circ} 05.5' N$ $129^{\circ} 42.0' E$ ）を結ぶ線以東に指定されている。

なお、佐世保港内で錨地を希望する全ての船舶は、佐世保海上保安部に連絡すること。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
小江公共岸壁	32° 45.4' N 129° 48.5' E	370	8～10	15,000×2	
小江係船くい	32° 45.5' N 129° 48.7' E	200	10	15,000×1	
小江東ふ頭岸壁		60	4.5	700×1	
神ノ島－5.5m岸壁	32° 43.5' N 129° 50.0' E	360	5.5	2,000×4	
皇后ふ頭－5.5m岸壁	32° 43.4' N 129° 50.1' E	90	5.5	2,000×1	
皇后ふ頭－5.5m岸壁	32° 43.4' N 129° 50.3' E	180	5.5	2,000×2	
皇后ふ頭－7.5m岸壁	32° 43.4' N 129° 50.1' E	390	7.5	5,000×3	
丸尾－5m岸壁	32° 44.8' N 129° 51.8' E	300	4	500×4	漁船用
中ノ島突堤－5m岸壁	32° 44.9' N 129° 52.1' E	255	5	500 t 級	漁船用
元船－5.5m岸壁	32° 44.8' N 129° 52.1' E	90	5	2,000×1	
元船－7.5m岸壁		130	6	4,000×1	
出 島 岸 壁	32° 44.6' N 129° 52.2' E	212	9	8,000×1	
松が枝岸壁	32° 44.2' N 129° 52.1' E	360	11.5～12	100,000 t ×1	
小ケ倉《コガクラ》－10m岸壁 (北1号)	32° 42.3' N 129° 50.7' E	175	10	10,000×1	
小ケ倉－7.5m岸壁 (北2号)		100	7.5	5,000×1	
小ケ倉－5.5m岸壁 (北3号)		100	5.5	2,000×1	
小ケ倉－12m岸壁 (西)	32° 42.2' N 129° 50.5' E	240	12	30,000×1	コンテナ クレーン
小ケ倉－10m岸壁 (西)		170	10	15,000×1	
小ケ倉－7.5m岸壁(南)	32° 42.1' N 129° 50.6' E	130	7.5	5,000×1	
小ケ倉－10m岸壁(南)		170	10	12,000×1	
土井首《ドイノクビ》 －5.5m 岸壁	32° 41.8' N 129° 50.4' E	180	—	2,000×1	
深堀－7.5m岸壁	32° 41.5' N 129° 49.4' E	260	7～7.5	5,000×2	

係船浮標 港内には多数の係船浮標がある。

最大入港船舶 2025年4月19日、客船 スペクトラム・オブ・ザ・シーズ (169,379 t、喫水 8.8m) が、松が枝岸壁に着岸した。

- 5 **台風・津波等対策** 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、長崎港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。また、異常気象時には、港長から各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあるので留意すること。(問合せ先：長崎海上保安部)

1 ベイパイロット乗船場所 戸島灯台より 184° 2.2 海里 (32° 09.7' N 130° 04.7' E)

2 ベイパイロットサービス時間 24 時間

3 八代港ハーバーパイロット乗船場所 (日出～日没)

錨泊船 航路 No. 1 ブイ 0.5 海里西 (32° 27.0' N 130° 29.0' E)

5 直航入港船 航路 No. 1, 2 ブイ 1 海里南 (32° 25.9' N 130° 29.2' E)

港湾施設

名 称		概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
外 港	G0 岸壁	32° 31.6' N 130° 32.2' E	410	10.5	220,000t×1	クルーズ船専用 一部耐震強化岸壁
	G1～G4 岸壁	32° 31.9' N 130° 32.4' E	650	10～11.5	15,000×4	
	G5 岸壁	32° 32.2' N 130° 32.6' E	280	12.5～14	50,000×1	2 アンローダー、 2 クレーン併設
	G6 岸壁		200	12	30,000×1	コンテナクレーン
	G11・G12 岸壁	32° 31.5' N 130° 32.3' E	260	5～8.5	5,000×2	
	G13 岸壁		165	8.5	10,000×1	
内 港	N1～N8 岸壁	32° 30.5' N 130° 33.8' E	720	3～4.5	2,000×8	
	N9・N10 岸壁	32° 30.7' N 130° 33.3' E	260	5～5.5	5,000×2	
	－4.5m岸壁	32° 30.6' N 130° 34.2' E	540	3～3.5	1,000×7	

この他、会社専用の係船施設がある。

注意 大築島以北の海域各所に多数の漁さくがあり、レーダによく映るものの高潮のときは没するものもあるので注意を要する。

10 **最大入港船舶** 2025 年 3 月 26 日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) がくまモンポート八代 (G0 岸壁) に着岸した。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
八代海上保安署 (港長)	0965-37-1477	福岡検疫所 水俣・八代出張所	熊本空港出張所へ連絡 096-232-3661
長崎税関八代税関支署	0965-37-1603	熊本県 八代港管理事務所	0965-37-0338
門司植物防疫所 鹿児島支所八代出張所	0965-37-1544	福岡出入国在留管理局 熊本出張所	096-362-1721

台風・津波対策 本港では、台風・津波等による船舶事故を未然に防止するため、八代港船舶津波、台風等対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先：八代海上保安署)

15

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
労働者健康安全機構熊本労災病院	0965-33-4151	

引船 引船がある。

修理 修理できる造船所がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

福江港 (32° 42' N 128° 51' E) (海図W1250)



(2019年9月撮影)

港種 港則法適用港、重要港湾

概要 福江島の東岸にある港で、五島列島の表玄関として長崎港及び付近の島々への定期船が就航し、
5 本列島の中心港として活況している。

目標

地物名	概位	備考
合同庁舎	32° 41.7' N 128° 51.0' E	4階建

港湾施設

名 称		概 位		長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
大波止	1号岸壁	32° 41.7′ N	128° 51.1′ E	200	7.5	5,000×1	フェリー使用
	2号岸壁	32° 41.8′ N	128° 51.1′ E	270	7～7.5	5,000×1	フェリー使用
	-5.5m岸壁	32° 41.6′ N	128° 51.1′ E	270	4～5.5	1,000×3	
大津	-5.5m岸壁	32° 41.5′ N	128° 51.3′ E	90	5.5	1,000×1	
	-7.5m岸壁	32° 41.5′ N	128° 51.4′ E	130	7.5	5,000×1	公共耐震強化岸壁
丸木岸壁		32° 42.0′ N	128° 51.0′ E	180	5.5	2,000×2	

錨地 大波止岸壁前面に-7.5m泊地(16.6ha)、丸木岸壁前面に-5.5m泊地(3.9ha、水深約5m)がある。
福江島と黒島、黄島、赤島の間には、海底ケーブル等が施設されており、錨泊の際は注意を要する。

10 **最大入港船舶** 2025年4月9日、客船バイキング・エデン(47,842t、喫水6.6m)が着岸した。

海事関係官公署

官公署名	連絡先
五島海上保安署	0959-72-3999

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

医療施設

名称	電話番号	備考
長崎県五島中央病院	0959-72-3181	

港湾施設

名 称			概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
本 港	漁港区N岸壁		31° 35.2′ N 130° 34.0′ E	250	4	250t×5	
	小川ふ頭岸壁		31° 35.9′ N 130° 33.9′ E	180	5.5	2,000×2	
	本港桜島フェリーふ頭岸壁		31° 35.8′ N 130° 33.8′ E	120	4.5	700×2	
	本港フェリーふ頭第3岸壁			60	4	1,000t×1	
	北ふ頭1号岸壁		31° 35.7′ N 130° 34.1′ E	360	12～13.5	10,000×2	
	北ふ頭2号岸壁		31° 35.7′ N 130° 34.0′ E	310	8	5,000×2	
	南ふ頭1号岸壁		31° 35.5′ N 130° 34.0′ E	155	8	5,000×1	
	南ふ頭2号岸壁			155	7.5	5,000×1	
	南ふ頭3号岸壁			90	6.5	2,000×1	
	南ふ頭4号岸壁			90	6	2,000×1	
	南ふ頭5号岸壁		31° 35.5′ N 130° 34.1′ E	150	7.5	4,000×1	
新 港	1号岸壁		31° 35.0′ N 130° 34.0′ E	125	7	5,000D/T×1	*
	2号岸壁			208	3.5～5.5	2,000D/T×2	*
	3号岸壁			184	4	2,000D/T×2	*
	5号岸壁		31° 34.8′ N 130° 34.0′ E	220	9	10,000D/T×1	*
	6号岸壁			190	6～7.5	8,000D/T×1	*
	7号岸壁			80	4	1,000×1	
	鴨池港突堤			31° 33.2′ N 130° 33.7′ E	150	4	700×2
鴨池港第2突堤			160		4.5	990t×2	
南 港	2号岸壁		31° 32.9′ N 130° 32.9′ E	161	4	700×2	
	3号岸壁（北）			81	3.5	700×1	
	3号岸壁（南）			125	4	700×2	
	4号岸壁		31° 32.8′ N 130° 32.8′ E	90	4	700×1	
	5号岸壁			80	3.5	700×1	
	6号岸壁			90	5.5	2,000×1	
	7号岸壁			174	5.5	2,000×1	
木材港1号岸壁			31° 32.0′ N 130° 32.6′ E	185	8.5	15,000×1	
マリンポート 1号岸壁			31° 32.1′ N 130° 33.2′ E	340	9	70,000t×1	
マリンポート 2号岸壁				410	11.5～12	220,000t×1	
谷山 1 区	1号岸壁		31° 30.5′ N 130° 31.5′ E	250	12	30,000×1	
	2号岸壁			260	7	5,000×2	
	3号岸壁			270	5	2,000×3	
	5号岸壁			400	5	2,000×4	
	6号岸壁		31° 30.2′ N 130° 31.4′ E	180	5.5	2,000×2	
	7号岸壁			260	7.5	5,000×2	
	8号岸壁			240	12	30,000×1	
谷山 2 区	北	東ふ頭岸壁	31° 29.7′ N 130° 32.2′ E	390	7.5	5,000×3	
		1号岸壁	31° 29.5′ N 130° 31.2′ E	360	5	2,000×4	
		2号岸壁		270	5.5	2,000×3	
		3号岸壁		180	5.5	2,000×2	
	谷 山	5号岸壁	31° 29.3′ N 130° 31.0′ E	270	5	2,000×3	
		6号岸壁		260	6.5～7.5	5,000×2	
		7号岸壁		390	5.5～7.5	5,000×3	
		8号岸壁		90	4.5～5.5	2,000×1	

	9号岸壁	31° 29.0' N 130° 31.0' E	90	4～5.5	2,000×1	
	10号岸壁		250	－	10,000×1	
	11号岸壁		250	6～8	10,000×1	

* D/T は、排水トン数を示す。

外国貿易船が使用する港湾施設などの保安を強化するための立ち入り制限区域がある。

最大入港船舶 2025年4月19日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が、マリンポート岸壁に着岸した。

5 医療施設

名 称	電 話 番 号	名 称	電 話 番 号
鹿児島市立病院	099-230-7000	鹿児島大学病院	099-275-5111

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
第十管区海上保安本部	099-250-9800	福岡検疫所鹿児島検疫所支所	099-222-1473
鹿児島海上保安部（港長）	099-222-6680	門司植物防疫所鹿児島支所	099-222-1046
九州運輸局鹿児島運輸支局	099-222-5660	動物検疫所門司支所 鹿児島空港出張所	0995-43-9061
長崎税関鹿児島税関支署	099-260-3125	鹿児島県鹿児島地域振興局建設部	099-805-7414
福岡出入国在留管理局鹿児島出張所	099-222-5658		

台風・津波対策 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため鹿児島港台風・津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：鹿児島海上保安部）。

10 **引船** 引船がある。

修理 修理のできる造船所がある。

補給 清水の補給は主な係船岸壁で可能であり、また、給水船がある。燃料油は、給油船から補給できる。

海上交通 沖縄、奄美、吐噶喇の各群島、種子島、屋久島、桜島及び鹿児島湾内の沿岸各地に至るカーフェリー便、那覇、名瀬、垂水及び指宿に至る定期旅客船便がある。

15

加治木《カジキ》港（31° 44' N 130° 40' E）（海図W1255）（JP KJK）

港種 港則法適用港

20 **概要** 鹿児島湾北岸にある南方に開口している港である。主な取扱貨物は建設資材である砂、砂利及びセメントである。

航行上の注意 西方へ圧流される傾向にあり、西側の防波堤に接触した船舶もあるので、十分な注意が必要である。

錨地 深喫水船の錨地は、港口の南方で飯埼～大島北端間の水深 12～16mの所がよい。同錨地は、東寄りの風のとき波浪が侵入するので注意を要する。

5 港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
第1岸壁	31° 34.4' N 131° 24.4' E	70	工事中	1,000×1	
第2岸壁		130	6.5～7.5	5,000×1	
第3岸壁		70	2	1,000×1	
第4岸壁	31° 34.6' N 131° 24.5' E	78	5	1,000×1	
第5岸壁		194	5	2,000×1	
第6岸壁		150	7	5,000×1	
第7岸壁		152	7	5,000×1	
第8岸壁	31° 34.2' N 131° 24.4' E	102	5～5.5	3,000×1	
第9岸壁		185	10.5	12,000×1	
第10岸壁		240	12	30,000×1	
漁港地区第1岸壁	31° 34.7' N 131° 24.0' E	450	3～4.5	1,000×1	

最大入港船舶 2024年10月15日、客船MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が、第10岸壁に着岸した。

台風・津波対策 この港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため油津港台風・津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：宮崎海上保安部）。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
宮崎海上保安部	0987-22-3264	宮崎県油津港湾事務所	0987-23-3125
門司税関 細島税関支署油津出張所	0987-22-2879		

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
宮崎県立日南病院	0987-23-3111	

第3節 奄美群島 (W182^B)

概要 奄美群島は、吐噶喇群島と沖縄群島との間に、北東～南西方向に並ぶ奄美大島、加計呂麻《カケロマ》島、与路島、請島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島及び硫黄島などの島から成る。

5 **気象** 亜熱帯海洋性の気候で、年間を通じて降雨が非常に多く、四季を通じて温暖多湿で、年平均気温は20℃を超える。台風の動向には十分注意が必要である。11月になると北風が卓越するようになる。

海上交通 東京～沖縄間、阪神～沖縄間、鹿児島～沖縄間の各航路のフェリー便(8,000t級)等がある。

10 **奄美大島** (28° 16' N 129° 27' E) (海図W225)

概要 奄美群島中、最も北にある島で平地が少ない。島の北東部の赤木名《アカキナ》半島は高い地勢を有しているため、南、北の海方からは島のように見える。

奄美大島の島岸は一般に高く険しいがけから成り、しかも急深であるが、中部以北の島岸には距岸約200～1,000mの間にさんご礁が広がっており、半潮又は低潮時に出没する所もある。

15 **名瀬港** (28° 23.8' N 129° 30.1' E) (海図W1202) (JPNAZ)

(2019年9月撮影)

港種 特定港、出入国港、重要港湾

概要 奄美大島北西岸にある港である。この港は港口付近から南方へ約2M湾入している。また、港内東岸から東方へ約0.8M湾入した支湾があり、湾奥に**大熊漁港**がある。

20 **目標**

地物名	概位	備考
立神	28° 24.5' N 129° 29.9' E	円すい形の黒い小島、島頂に旧灯台がある。
無線塔	28° 24.1' N 129° 29.5' E	高さ281m
旅客待合所	28° 23.3' N 129° 29.7' E	白塗、2階建、定期船発着時には付近に多数の照明灯を点ずる。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
長浜観光船岸壁	28° 23.5′ N 129° 29.8′ E	280	10	30,000×1	
本港1号岸壁	28° 23.2′ N 129° 29.7′ E	185	9～10	10,000×1	フェリー使用
本港2号岸壁		185	13～14	10,000×1	
新港3号岸壁		160	－	2,000×1	耐震岸壁
本港C岸壁	28° 23.0′ N 129° 29.7′ E	90	－	80GT×1	
佐大熊A岸壁	28° 23.7′ N 129° 30.3′ E	140	5.5	2,000×1	
佐大熊B岸壁		100	5.5	2,000×1	
佐大熊C岸壁		100	5.5	2,000×1	
佐大熊D岸壁		130	－	2,000×1	

通信 船舶と港長との間で無線電話による港務通信ができる。

呼 出 名 称	呼出応答/通信チャンネル	運 用 時 間	連 絡 先
かごしまほあん Kagoshima Coast Guard Radio	16/12ch	常 時	奄美海上保安部

5 台風・津波対策 この港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため名瀬港台風・津波等対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先、奄美海上保安部)

補給 清水の補給は主な岸壁でできる。また、給油船がある。

最大入港船舶 2024年3月18日、客船ノルウェー・ジャンジュエル(93,502t、喫水8.5m)が長浜観光船岸壁に着岸した。

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
鹿児島県立大島病院	0997-52-3611	

10 海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
奄美海上保安部(港長)	0997-52-5811	門司植物防疫所名瀬支所	0997-52-0459
鹿児島県大島支庁建設課	0997-57-7332	長崎税関 鹿児島税関支署名瀬監視署	0997-53-3271

概要 この港は瀬底島と沖縄島間の瀬底大橋（高さ約 22m、長さ 762m）で北、南に分かれており、北部に渡久地地区、南部の瀬底島の対岸に本部地区がある。渡久地地区には、地元漁船の利用する岸壁がある。台風等荒天時の渡久地地区は、港内が狭隘で地元漁船が多数避難しているため利用は困難である。

目標

地物名	概位	備考
本部大橋	26° 39.7' N 127° 53.3' E	高さ約 13m、青色、顕著
ホテル	26° 39.8' N 127° 53.5' E	白色
ホテル	26° 38.4' N 127° 52.9' E	白色

5 港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (t×隻)	備考
-4.5m岸壁	26° 38.5' N 127° 52.8' E	137	2.5~4.5	500×1	本部地区
-7.5m岸壁	26° 38.3' N 127° 52.8' E	330	7~8.5	7,000×1	本部地区、フェリー使用

航行上の注意

- 1 渡久地地区の沿岸は至る所にさんご礁が広がっており、特に瀬底島の北岸前面からその北北東方対岸との間には多数のさんご礁が続いている。これらのさんご礁は、低潮時には破浪して見分けやすいが、荒天時又は海水の濁っているときは識別しにくいので注意を要する。
- 10 2 本部地区の-7.5m岸壁には、貨物船及び鹿児島～那覇間を航行するフェリー便（8,000t 級）が出入港するため、発着時間に注意すること。また、この岸壁は防波堤が無く直接航路に面しているため、波浪、うねりの影響を受けやすく荒天時の避泊には不適である。特に北及び南の風浪が強い場合は、停泊時においても船体動揺が激しい。

潮流 瀬底島と沖縄島間の水道最狭部では、上げ（下げ）潮流は南（北）方へ流れ、最強流速は上げ 1.9kn、
15 下げ 1.5kn である。

架橋 渡久地地区の港口に本部大橋（高さ約 13m、長さ 352m）が横断している。また、瀬底島東岸北部からその東方対岸に瀬底大橋（高さ約 22m、長さ 762m）が架かっている。

台風・津波対策 台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため沖縄県北部台風及び津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：名護海上保安署）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
沖縄県 本部港港湾管理事務所	0980-47-4200	名護海上保安署	0980-53-0118

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海上交通 本部地区からは、伊江島との間に定期カーフェリー便（987t 及び 975 t）、鹿児島港～那覇港との中継港としてフェリー便（8,000 t 級）が発着しており、渡久地地区からは水納島との間に定期旅客船便（86 t）が発着している。

潮流 自謝加瀬《ジジャカビセ》(26° 14.8′ N 127° 39.3′ E)、干ノ瀬《カンノビセ》(26° 14.0′ N 127° 39.2′ E)の西方では、上げ(下げ)潮流は北東(南西)方へ流れ、最強流速は上げ1.7kn 下げ1.6knである。

目標

地 物 名	概 位	備 考
煙 突	26° 15.0′ N 127° 40.3′ E	高さ62m、青白塗、浦添市クリーンセンター構内
港湾合同庁舎	26° 14.5′ N 127° 40.6′ E	高さ40m、赤レンガ造り、屋上にパラボラアンテナがある。
コンテナクレーン群	26° 14.0′ N 127° 40.1′ E	上部黄色、下部灰色、那覇国際コンテナターミナル内。
相順《ソウジュン》山	26° 13.9′ N 127° 41.0′ E	高さ46m、頂の北東側に病院がある。
無線塔	26° 11.0′ N 127° 41.5′ E	高さ地上165m、赤白塗、NHK 鉄塔、顕著。

5

港湾施設

名 称	概 位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
那覇ふ頭	1号岸壁	26° 12.7′ N 127° 40.1′ E	165	7.5～9	10,000×1
	2号岸壁		165	9	10,000×1
	6号岸壁		93	8	5,000×1
	3号岸壁	26° 12.6′ N 127° 40.3′ E	164	7.5～8.5	10,000×1
	4号岸壁		70	3.5～6.5	1,000×1
泊ふ頭	1号岸壁	26° 13.5′ N 127° 40.9′ E	105	5	3,000×1
	2号岸壁		105	2.5～5.5	3,000×1
	3号岸壁	26° 13.4′ N 127° 41.0′ E	105	5.5	3,000×1
	4号岸壁		26	3.5～5	-
	5号岸壁	26° 13.5′ N 127° 41.0′ E	75	2.5	500×1
	6号岸壁		90	2.5～5	500×1
	7号岸壁	26° 13.6′ N 127° 40.9′ E	105	3	3,000×1
	8号岸壁	26° 13.6′ N 127° 40.5′ E	340	10～11	70,000×1
新港ふ頭	1号岸壁	26° 14.2′ N 127° 40.8′ E	390	7.5	5,000×3
	2号岸壁		70	4	2,000×1
	3号岸壁		410	7.5	5,000×3
	4号岸壁	26° 14.3′ N 127° 40.7′ E	410	7	5,000×3
	5号岸壁		407	11	20,000×2
	6号岸壁	26° 14.2′ N 127° 40.5′ E	387	10～11	20,000×2
	7号岸壁		391	11	20,000×2
	9号岸壁	26° 14.1′ N 127° 40.0′ E	300	14	40,000×1
	10号岸壁		350	14	40,000×1
	12号岸壁	26° 14.6′ N 127° 40.0′ E	430	12	220,000×1
					コンテナクレーン
浦添ふ頭	1号岸壁	26° 15.2′ N 127° 41.0′ E	130	7.5	5,000×1
	2号岸壁		130	7.5	5,000×1
	3号岸壁		130	7.5	5,000×1

浦添ふ頭	4号岸壁	26° 15.2' N 127° 41.0' E	130	7.5	5,000×1	
	5号岸壁		130	7～8.5	5,000×1	
	6号岸壁	26° 15.3' N 127° 40.8' E	130	7.5	5,000×1	
	7号岸壁		130	7.5	5,000×1	
	8号岸壁		210	8.5	7,000×1	

上表ほか、小型船用の物揚場（水深2～4m）が那覇ふ頭、泊ふ頭、新港ふ頭にそれぞれある。また、浦添ふ頭南側に漁船だまり、泊ふ頭北西側に泊漁港、マリーナ及び那覇ふ頭北西方に小型船用船だまり（三重城船だまり等）がある。

那覇空港北側岸壁に専用ドルフィン桟橋があるほか、那覇ふ頭南西方に軍港岸壁（6バースある）があるが、同岸壁は米軍の専用になっている。

5 港則

びよう泊等の制限（港則法施行規則第49条）	船舶は、那覇港新港第1防波堤南灯台（26° 13' 27" N 127° 39' 06" E）から128°、1,445mの地点から309° 785mの地点まで引いた線、同地点から219° 300mの地点まで引いた線、同地点から那覇港右舷灯台（26° 12' 48" N 127° 39' 47" E）まで引いた線及び陸岸により囲まれた海面並びに国場川明治橋下流の河川水面（「那覇水路」という）においては、次に掲げる場合を除いては、びよう泊し、又はえい航している船舶その他の物件を放してはならない。 (1) 海難を避けようとするとき (2) 運転の自由を失ったとき (3) 人命又は急迫した危険のある船舶の救助に従事するとき (4) 法第31条の規定による港長の許可を受けて工事又は作業に従事するとき		
航行に関する注意（港則法施行規則第50条）	1 総トン数500t以上の船舶は、那覇水路を航行して入航し、又は出航しようとするときは、法第38条第2項各号に掲げる事項（同項第3号に掲げる事項は、入航しようとするときにあたっては那覇水路入口付近に達する予定時刻とし、出航しようとするときにあたっては運航開始予定時刻とする。）を、それぞれ入航予定日又は運航開始予定の前日正午までに港長に通報しなければならない。 2 前項の事項を通報した船舶は、当該事項に変更があったときは、直ちにその旨を港長に通報しなければならない。		
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年告示第94号）	信号	目的地に関する記号	信 文
	2代・N	N	那覇ふ頭又は那覇軍港の係留施設に向かって航行する。
	2代・T	T	泊ふ頭の係留施設に向かって航行する。
	2代・S	S	新港ふ頭の係留施設に向かって航行する。
	2代・U	U	浦添ふ頭の係留施設に向かって航行する。
	1代・Y		倭口から出港する。
	1代・T		唐口から出港する。

入港上の注意

1 この港の入口は、新港第1防波堤の北から入る倭口《ヤマトクチ》（26° 15.3' N 127° 39.4' E）及び同防波堤の南から入る唐口《トウクチ》（26° 13.4' N 127° 38.8' E）の2水路がある。

倭口は、自謝加瀬、新港第1防波堤北と浦添第1防波堤の間を通る水路で、2灯標、1灯浮標（同期点滅）で標示されている。~~この水路は5,000t級までの船舶が通航しているが、ダナカンフガー（26° 14.2' N 127° 39.6' E、水深4m）、同瀬の北方約300mにある浅礁（26° 14.5' N 127° 39.6' E、最小水深2m）などがあるので、この海域に慣れない船舶は夜間の通航を避けたほうがよい。~~倭口を通航して新港ふ頭・泊ふ頭に向かう船舶はオネベ瀬（26° 13.9' N 127° 40.3' E、水深4.8m）に注意を要する。

唐口は、干ノ瀬と浅ノ瀬の間を通る水路で、入港船のほとんどがこの水路を利用する。

新港ふ頭及び泊ふ頭へ向かう船舶は、三重城の北方0.5M付近の浅礁（26° 13.3' N 127° 39.8' E、

の陸岸の前面 30m以内の海域は、米軍への提供水域となっており、一般船舶の立入りが制限されている。

錨地 通航路及び危険物積載船舶などの錨地を確保するため、標準錨地（標準錨地については港長に問い合わせること）が設けられており、この錨地は比較的安全に錨泊できるが、周囲はさんご礁で囲まれており、海底は陰悪であるので、この海域の状況に詳しくない船舶は水先人なしでは投錨しないほうがよい。

5 **檢疫錨地**は、新港第1防波堤の西方にある。

通信 船舶と**港長**との間で無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	呼出応答/通信チャンネル	運用時間	連絡先
おきなわほあん Okinawa Coast Guard Radio	16/12ch	常時	那覇海上保安部

水先 那覇港には強制水先区があり、那覇水先区水先人会へ要請する（第1編総記第6章水先参照）。
那覇水先区の水先要請引き受け基準として、視程が700m以下の視界制限状態のとき、風速については那覇ふ頭地区への水先は10m/s以上の強風のとき、また、新港ふ頭地区への水先は13m/s以上の強風のとき、水先業務を引き受けない。また、この他に種々な基準があるので問合わせが必要である。

架橋 泊ふ頭の西側付近に泊大橋（高さ25m、橋梁灯付）がある。

最大入港船舶 **2025年3月22日**、客船MSCベリッシマ（171,598t、喫水8.7m）が、**新港ふ頭12号岸壁〔第2クルーズバース〕**に着岸した。

15 **台風・津波対策** 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため那覇港台風及び津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難、入港制限の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：那覇海上保安部）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
第十一管区海上保安本部	098-867-0118	沖縄地区税関（本関）	098- 996-5506
那覇海上保安部（港長）	098-951-0118	動物検疫所沖縄支所	098-861-4370
那覇検疫所（本所）	098-868-8037	福岡出入国在留管理局那覇支局	098-832-4186
那覇植物防疫事務所	098-868-0715	門司地方海難審判所那覇支所	098-868-9334
沖縄総合事務局運輸部	098-866-1836		

引船 引船がある。

修理 修理できる造船所がある。

20 **補給** 主な岸壁で清水、燃料油の補給ができる。

医療施設

名称	電話番号	備考
沖縄赤十字病院	098-853-3134	

海上交通 **本州、九州及び周辺離島との間にフェリー便等がある。また、釜山〔韓国〕、上海〔中国〕、との間にコンテナ船等が就航している。**

中 城 湾 (26° 15' N 127° 53' E) (海図W228^B、W239、W241)

新港地区



(2019年9月撮影)

- 5 **概要** 金武中城港の南半分を占める広く大きな開湾で、港奥ほどしだいに浅くなっている。湾浜の前面及び小島の周囲には干出さんご礁、洗岩や暗礁などがあり、錨泊の妨げになっている。

湾内の北部に**新港地区**が、南西部に**与那原《ヨナバル》湾**があり、勝連《カツレン》埼の北西側に米軍専用のホワイトビーチ軍港（通称）が、**久高《クダカ》島** (26° 10' N 127° 54' E) 南西端には**徳仁《トクジン》港**がそれぞれある。

- 10 この湾の入口は、南から久高口 (26° 09.0' N 127° 53.0' E)、二ツ口《ターチイクチ》(26° 13.0' N 127° 57.0' E)、津堅口《ツケンクチ》(26° 16.5' N 127° 59.0' E) 及び浜比嘉口《ハマヒガクチ》(26° 20.5' N 128° 00.5' E) があり、その主な入口は二ツ口（幅約2M、水深約55m）である。

二ツ口は中城湾の主な出入口で、入口水路の中央に中城湾口灯浮標 (26° 13.3' N 127° 58.0' E、レーダ反射器付) がある。

- 15 **目標**

地 物 名	概 位	備 考
煙 突	26° 11.4' N 127° 45.9' E	高さ121m、薄青塗
製 糖 工 場	26° 20.7' N 127° 51.9' E	白色の建物及び煙突（高さ52m）がある。
ウ ガ ン 岩	26° 10.9' N 127° 55.7' E	高さ5mの岩、二ツ口通航時の目標となる。

港湾施設（新港地区）

名 称		概 位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
新 港	西ふ頭岸壁 (-5.5m)	26° 19.5' N 127° 50.9' E	270	5	2,000×3	
	西ふ頭岸壁 (-7.5m)		260	5~7	5,000×2	
	西ふ頭岸壁 (-10m)		185	9~10	15,000×1	
	西ふ頭岸壁 (-13m)		260	12.5	40,000×1	
	東ふ頭岸壁 (Aライン)	26° 19.8' N 127° 51.4' E	390	7~7.5	5,000×3	
	東ふ頭岸壁 (Bライン)		390	7~7.5	5,000×3	
	東ふ頭岸壁 (Cライン)		271	11	18,000×1	

水路 中城湾北部の防波堤（西）から新港地区に至る掘下げ水路は幅約230m、水深13mで3灯浮標及び防波堤灯台で表示されている。

最大入港船舶 2025年1月14日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が、平良港クルーズ岸壁に着岸した。

錨地 検疫錨地（24° 51.8′ N 125° 15.6′ E）が港外北部、下崎の北北西方 2M付近にある。通常、大型船に薦められる錨地としては、大神島頂（24° 55.0′ N 125° 18.5′ E、高さ 74m）を 055° 約 4.4M に見る所（水深 53m、底質細砂及び貝殻）が良い。また、池間島灯台を 011°、西平安名《イリヘンナ》岬先端を 051°、同島の東側外端を 183°、伊良部島北端を 248° にそれぞれ見る所にも錨地が得られる。

北東の季節風が強吹するときの錨地としては、池間島の南側で、西平安名岬の頂を 105° 約 0.8Mに見る所が唯一のものであるが、付近に土砂投入地があるので注意を要する。

注意 錨のつめが礁の間に挟まる場合があるので、錨地の選定及び抜錨には慎重な配慮が必要である。

10 **台風・津波対策** 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため宮古地区海上防災対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：宮古島海上保安部）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
宮古島海上保安部	0980-72-0118	福岡出入国在留管理局 那覇支局 宮古島出張所	0980-72-3440
沖縄地区税関 宮古島税関支署	0980-72-2310	那覇検疫所 平良出張所	0980-73-5115
那覇植物防疫事務所 平良出張所	0980-72-2433	宮古島市 建設部 港湾課	0980-72-4876

補給 清水の補給ができる。

15 **修理** 小規模の修理ができる。

医療施設

名称	電話番号	備考
沖縄県立宮古病院	0980-72-3151	

海上交通 多良間島との間にフェリー便（499 t）がある。

20 **伊良部島**（24° 50′ N 125° 11′ E）（海図W1281）

概要 宮古島平良港の西方約 3Mにあり、宮古島北西岸西部に位置する。島頂は島の南東端にある高さ 89 mのがけである。島はさんご礁で囲まれ、南西側に下地島がある。

島頂の北西方至近にある無線塔（24° 49.2′ N 125° 12.8′ E、赤白塗、2 基）は遠方からよく目立つ。

架橋 伊良部島南東端から、宮古島西岸野川崎間に伊良部大橋（高さ約 27m、全長 3,540m）がある。

港種 港則法適用港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

概要 この港は、西方へ開口し、南西部にふ頭用地〔新港地区〕が埋め立てられサザンゲートブリッジ

(高さ 12m) で繋がっている。南側は、島の南端から半月形に竹富島まで延びるさんご礁 ~~(干出 0.3～1.5m)~~ に囲まれているため、わずかに南東の風浪を防ぐことができる。港内は北西部を除き、各方向から幅広く浅水地が張り出し、かつ中央部付近にも浅水の孤立さんご礁が散在しているため、錨泊に適する区域は非常に狭い。港界南東端のさんご礁の切れ目に、釜口《ハガマグチ》〔サクラロ〕という狭い水道は掘り下げられ、地元漁船が利用しているが、橋梁の関係でマスト等の高い船舶の通航には支障がある。

港域内には石垣漁港及び登野城《トノシロ》漁港がある。

目標

地 物 名	概 位	備 考
屋良部《ヤラブ》埼	24° 26' N 124° 04' E	
御神《オガン》埼	24° 27' N 124° 05' E	埼上に灯台がある。石垣港に近づくときの好目標
屋 良 部 岳	24° 26' N 124° 05' E	高さ 216m
竹 富 島	24° 19' N 124° 05' E	高さ 33mの平らな島
小 浜 島	24° 20' N 123° 59' E	高さ 99m
無 線 塔	24° 21.8' N 124° 09.5' E	高さ 160m、赤白塗
著 屋	24° 20.3' N 124° 08.9' E	ターミナルビル、白塗
橋 梁	24° 19.9' N 124° 09.6' E	サザンゲートブリッジ、高さ 12m、青塗、顕著

水路 観音埼の南南西方 1M 付近から、港口に至る水路は 5 灯浮標で表示されている。沖南防波堤と防波堤 (沖西) 及び防波堤 (西)、その南方約 0.2M にある ~~岸壁 (北西端に灯 (黄色))~~ との間を経て港内に至る間は、水深約 9m、幅約 150m の狭い掘下げ水路である。この水路の両側は白色さんご礁で、天候不良時及び夜間を除いて船橋から容易に視認できる。

針路法 第 2 編航路記第 2 章南西諸島、那覇港～宮古島・石垣島の針路法 3 により大埼正横 2.7M で針路 135° に変針した船舶は、石垣港中央灯浮標 (24° 20.9' N 124° 06.3' E) を左船首に見るように進む。

以降、巡視船 (1,000 t、喫水 3.8m) は石垣港中央灯浮標を左正横に見て、針路 117° に変針し、石垣港沖南防波堤北灯台 (24° 20.0' N 124° 07.9' E) と沖西防波堤の中央向け航行し、13 階建てホテル (24° 20.2' N 124° 09.5' E 白塗) を船首目標 (針路 081°) として適宜岸壁に向かう。(2003 年)

入港上の注意

- 1 西表島等への高速連絡船が頻繁に出入し、出港船であっても水路内の南寄りに航行する船舶があるので注意すること。
- 2 夜間、街灯と灯浮標の灯火を誤認するおそれがある。
- 3 B 岸壁の前面は、干潮時喫水 4.0m 以上の船舶は、余裕水深が無くなり操船困難になる場合があり、南の風が 10m/s 以上になると、岸壁に圧流され自力での離岸が困難になるので注意を要する。

制限 この港では、条例により原則として夜間の係留施設への着岸は禁止されている。入港しようとする船舶は、石垣市役所港湾課 (石垣市浜崎町 3-4、電話 0980-82-4046) の指示に従わなければならない。

行政指導 石垣海上保安部では、入港する外国船舶に対し次のとおり指導を実施している。

- 1 石垣港へ入港する船舶は海図W1206、W1285、W1286を備え置くこと。
- 2 石垣港域内で錨泊に適する海域は、検疫錨地のみである。但し、検疫錨地は非常に狭いので、同時に錨泊できる船舶に限りがある。(5,000 t以下の船舶では4隻が限度。)
- 3 同港周辺海域にはさんご礁からなる浅瀬が沢山あり、外国船舶の乗揚げ事故が頻発しているため入港する場合は、厳重に注意すること。
- 5 4 検疫錨地には入出港船舶のメイン航路が通っているため、検疫錨地に錨泊する船舶は入出針路及び錨泊位置については極力メイン航路を避けること。
- 5 入港経験不足により不安を感じた船長及び船舶の性能により航行が制限される大型船舶は、なるべく引船や水先人等を手配すること。
- 10 6 出入港船舶は、VHF16chを常時聴守すること。

港湾施設

名 称		概 位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
浜崎町地区	A 岸 壁	24° 20.3′ N 124° 09.1′ E	60	3.5	1,000×1	
	B 岸 壁		100	5	1,000×1	
	C 岸 壁		130	－	5,000×1	工事中
	D 岸 壁		130	6.5～7	5,000×1	
	E 岸 壁		185	8.5～9	10,000×1	
	F 岸 壁		250	8.5	15,000×1	耐震強化岸壁
	-7.5m 岸 壁	24° 20.3′ N 124° 08.7′ E	170	6.5～7.5		
新港地区	-7.5m 岸 壁	24° 20.0′ N 124° 08.9′ E	130	7.5	5,000×1	
	-5m 岸 壁		140	3.5～4.5	1,000×2	

注意 岸壁に係留する場合、潮流に対して特に注意を払う必要がある。台風の場合は、岸壁係留はできない。この島にはネズミが多いので、係留索にラットガードを付けることを忘れてはならない。

最大入港船舶

2025年3月21日、客船MSCベリッシマ(171,598 t、喫水8.7m)が、新港地区(新港クルーズ岸壁)に着岸した。

台風・津波対策 本港では台風・津波による事故を未然に防止するため石垣港災害対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難、入港制限の勧告・解除等の台風災害防止措置を指導している(問合わせ先:石垣海上保安部)。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
石 垣 海 上 保 安 部	0980-83-0118	那覇植物防疫事務所石垣出張所	0980-82-2312
沖縄地区税関石垣税関支署	0980-82-4519	沖縄総合事務局石垣港湾事務所	0980-82-4740
福岡出入国在留管理局那覇支局 石垣港出張所	0980-82-2333	沖縄総合事務局八重山運輸事務所	0980-82-4772
那 覇 検 疫 所 石 垣 出 張 所	0980-82-4940	石垣市 建設部 港湾課	0980-82-4046

- 20 引船 引船がある。
- 補給 清水及び燃料油の補給ができる。